

授 業 科 目 名	教育実習 I (幼稚園)	教 員 名	城戸 佐智子 有嶋 誠	免許・資格 との関係	小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	必修
授 業 形 態	実習	担当形態	複数	卒業要件	保育士	
科 目 番 号	JIS303	配当年次	3年後期		こども音楽療育士	
単 位 数	2単位			小幼コース	必修	
科 目	教育実践に関する科目 (幼稚園)					
施 行 規 則 に 定 める 科 目 区 分 又 は 事 項 等	教育実習					
一 般 目 標	<p>教育実習は、大学で学修した理論と学校現場での実践を統合する自主的・能動的かつ総合的な活動である。授業（教育・保育）を中心とする幼稚園教育活動全体の実践活動を行うことはもとより、幼稚園運営や教員（保育者）の職務の実態にも触れることによって、より実践的な指導力を育成する。</p> <p>(1) 観察及び参加並びに教育実習園の理解に関する事項 幼児や環境構成等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた幼稚園経営及び教育活動の特色を理解する。</p> <p>(2) 保育内容の指導及び学級経営に関する事項 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、教育実習を通して体験的に理解する。</p>					
到 達 目 標	<p>(1) 観察及び参加並びに教育実習園の理解に関する事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 幼児との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 2) 指導教員等の実施する活動において視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 3) 教育実習園の経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 4) 学級担任の補助的な役割を担うことができる。 <p>(2) 保育内容の指導及び学級経営に関する事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 2) 保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を実地に即して身につけるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 3) 学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 4) 様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。 					
授 業 の 概 要	2週間の教育実習を通し、幼児理解を深め、体験的総合的に幼稚園教諭の職務を学ぶ。また保育指導案の作成、実際の保育体験により、幼児教育の適切な指導方法を体得し、実践的な指導力を培う。更に幼児の個性や生活環境を踏まえた学級経営の実際を学ぶ。地域との連携にも注目し、保護者や地域の人々との連携の在り方を知る。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている。」「3. 教育者として、持つべき十分な記述力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力を身につけている。」「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている。」「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」「7. 基礎的な英会話及び音楽力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	主に観察実習・参加実習・研究保育とする。 下記の視点を意識しながら10日間の教育実習を行う。					

	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼稚園の一日の流れ、幼児の姿、幼児と教諭との関わりを観察する。 2. 発達に合わせた環境構成及び教諭の指導の実際を観察し、幼稚園教諭の職務を学ぶ。 3. 主体的に積極的に教諭の補助を行い、指導を受けながら保育実践に取り組む。 4. 環境整備、環境構成、教材づくりなど、幼稚園教諭の職務を経験する。 5. 実習日誌を作成し、幼稚園教育の現実を把握する視点や記録方法について実践的に学ぶ。 6. 指導計画案を作成し、幼児の姿と発達に応じたねらい、内容の設定の仕方など、保育計画の立て方について学ぶ。また、実践し、反省会等を通して幼稚園教育の視点を学ぶ。 7. 行事に積極的に参加し、幼稚園教育の責務や保護者・地域との連携について学ぶ。 8. 幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るための工夫を学ぶ。 9. 幼稚園教育全般について実習を通して理解を深め、教育実践力を向上させる。 10. 日々の反省を通して、これから取り組むべき自分の課題を明確にする。 <p>実習園の配置計画は学生の希望に基づき、大学から依頼して内諾を得る。また、大学と実習園とが連携協力して大学教員が直接訪問し、学生の指導に当たる。</p>
学生に対する評価	<p>評価の基準：積極的に子どもと関わり、実践を通じた記録をもとに今後の課題が明確にできる。</p> <p>評価の方法：実習園評価（50%）・実習日誌及び保育参観教員による評価（50%）</p>
時間外の学習について	<p>予習：実習指導の内容を踏まえ、各自の表現力・実践力を高めておく。</p> <p>復習：実習日誌等の記録を整理し、今後の課題を明らかにしておく。</p>
テキスト	
参考書・参考資料等	資料を随時配布する。
担当者からのメッセージ	<p>実習に臨む前に、「幼稚園教育要領」をしっかり学習し、幼児教育について理解しておいて欲しい。</p> <p>小学校教諭を目指す学生にとって、幼児教育と小学校教育の違いや連携を学ぶ機会となり、また、保育者を目指す学生にとって、実際に幼児と関わりを持ち保育を実践できる機会となる。それぞれの立場から課題を明確にして実習に臨んで欲しい。</p>
オフィスアワー	<p>城戸：毎週木曜日 15:00～16:00</p> <p>白石：毎週火曜日 13:00～16:00</p>